

I 実践

〈本校の人権教育の目標〉

日本国憲法の概念である人権尊重の教育を生徒の発達段階や地域の実情をふまえながら推進し、学校教育活動全体を通して人権尊重の精神を高め、一人一人を大切にしたい教育の充実を図る。

1 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導の推進

育てたい生徒の姿を「学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身に付けた生徒」とし、全ての生徒に安心して学習できる場を保障し、互いに学び合い、認め合う中で、確かな学力を身につけさせることを目標としている。この授業づくりの根底として生徒相互の「他者を大切にする心」を育てることを大切にしている。全ての教科で、1時間の授業の中に小グループでの学び合いの時間を積極的に取り入れている。その中で、自分の考えが認められ、さまざまな友達の考えに触れることで仲間と学ぶ楽しさを知り、自己肯定感を高めると同時に、学ぶ意欲を高められるようにしている。

【小グループの約束】

- ・ わからない人は隣の人に相談できる。
- ・ わからないと相談された人は、徹底的に教える。言われるまでは教えない。
- ・ グループのみんながわからないときは、他のグループに相談しても良い。



2 人権を配慮した教師の関わり

学校教育全体において全ての教師が共通した姿勢で人権を配慮した関わり方を意識できるよう、次の「5つの共通実践」カードを所持・掲示している。

- 1 教師はチャイムが鳴る前に教室に行きます。
- 2 授業の始まりと終わりにお互いが気持ちのよい挨拶をします。
- 3 生徒が発言できる場を多くもち、挙手する機会を多く与える授業づくりを心がけます。
(より多くの生徒に発言する機会、生徒とのやりとりで授業をすすめている)
- 4 みんなが発表者のほうを見て聞く姿勢をもちます。
(生徒の様子を見て聞く姿勢を注意している)
- 5 教師は1回の授業で5回以上生徒をほめます。(学習規準について全体にほめる。)

3 人権に関する知識を深め、人権を身近に考える様々な活動

(1) 総合的な学習の時間を通して

1年生では、「身近な地域における福祉について」をテーマとして、毎年12月に、地域の高齢者の方と交流会を行っている。交流会では、高齢者の方を招待して、パンポンや卓球などのスポーツ、けん玉やカルタ取りなどの昔遊びを一緒に行った。共に活動することで、高齢者の方を身近に感じ、どういった接し方が望ましいかを学習した。



(2) 人権作文や人権メッセージへの応募

毎年全員で人権メッセージの作成に取り組んでいる。道徳の授業などを通して、思いやりや命の大切さなどについて考えたことを、自分の言葉で発信することで人権感覚の育成を図っている。生徒の作品は廊下に掲示し、互いの考えを認め合う環境づくりに努めている。

(3) 心と体を大切にすることの取り組み

その他にも1年生で「喫煙防止教室」、2年生では「非行防止教室」、3年生では「性に関する学習会」を行っている。さらに本年度は第1学年で「学級活動において食生活を見直そう」というテーマで講師の先生から食生活についての授業を受ける機会を設けた。自分の心と体に関及ぶ様々な危険性などについてきちんとした知識を得ることで、互いを大切にするための心を育てている。



4 一人一人の人権を尊重する学校全体での取り組み

(1) ハイパーQ Uテスト、いじめに関するアンケート、面談・教育相談の実施

年度当初の4月と年度途中の11月にハイパーQ Uテストを実施し、学級経営に生かしている。また、いじめに関するアンケートを毎月行い、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるよう努めている。その他に、二者面談を年三回（3年生は三者面談を含む）行い、事前の生活アンケートをもとに、一人一人が自立した生活を送れるよう支援している。

(2) 校長賞の活用

台原中では、3つの目標「時間を守る、迷惑をかけない、他の人の役に立つこと」のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動ができるよう心がけている。特に「他の人の役に立つ」という目標を通して、生徒一人一人の良さががんばりを賞賛するために「校長賞」という制度を設けている。賞を受ける対象としては、学年、学級、個人などがあり、具体的内容としては、「ゴミ処理の手伝い」「牛乳パック処理」「友人を思いやる行動」「あいさつの良さ」「トイレの美化活動」など、教師が普段の行動の中に積極的に生徒の良いところを見つけ、自己肯定感を高められるようにしている。

5 成果

学校生活全体を通して、教師自らが「5つの共通実践」や「3つの目標」を心がけてきたことで、教師と生徒とのより良い関係づくりにつながっていると感じられる。学校生活や授業に関する生徒アンケート結果では、1学期に比べ特に「迷惑をかけないようにしている」で「そう思う」と答えた生徒が20%上昇しており、生徒の意識の変化が見られた。また、校長賞を通し、生徒たちのなかで、「あの人がこんないい行動をしていたよ」とか、「あの人がすごいよね」など肯定的な会話が見られ、行動で表そうとする生徒が増えている。

II 今後の課題

○学び合い活動では、グループという形態だけでなく、グループにおける活動の中での役割や達成すべき目標をより明確にした活動を工夫し、全ての生徒が自主的に取り組める授業づくりを心がける必要がある。

○学校全体で認め、励ますことにより生徒の自己肯定感を高め、生徒一人一人が自主的に他の人の役に立つ行動を考えることで、互いを大切にする気持ちをもって生活できるようにしたい。